

事後評価結果（平成17年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
17-1	社会心理学に基づくコミュニケーション型 TDMに関する研究開発	東京工業大学大学院教授 藤井 聡	B
<p><研究の概要> 交通需要施策（TDM：Traffic Demand Management）の実効性を高めるため、モビリティ・マネジメント（MM）の本格実施を見据えた、基礎的かつ実務的研究を推進するためのプログラム等の開発を行う。</p> <p><主な研究成果></p> <ul style="list-style-type: none">MM施策を支援するための個別的公共交通利用情報提供システムの開発国内外のMM事例の事例収集と知見のとりまとめ転入者モビリティ・マネジメントとその効果把握大規模モビリティ・マネジメントによる交通流円滑化効果に関する検証 <p><事後評価結果> 諸外国の事例も含め、幅広い事例を収集・整理しており、全国各地でのMM（モビリティ・マネジメント）の普及に大いに貢献することが期待される研究成果となっていることから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">実務への展開を促進するためには、今後、MMを段階的に実現するための方法論（適用条件、実施手順、効果測定など）の構築が期待される。今後のMMのあり方についての分析や、バス情報提供サービスの継続性についての具体策の検討が行われることを期待する。また、今回研究ではクルマ利用の抑制が主目的となっている。今後、MMの目的である「かしこいクルマの使い方」に関して多方面な研究が期待される。			